

結ったんぼ「脱穀」と収穫祭

朝夕はめっきりと冷え込んでまいりました。県内でも初雪の報せが聞こえて来ます。冬はもう間もなくです。皆さんも「あ、また雪の季節か」と本音といったところでしょうか。

みちのく民俗村園内と南口に作付けした「もち米」も豊かに実り、本来であれば九月半ばに皆さんと刈り取りを予定していたのですが、ご承知のとおり岩手県緊急事態宣言が出されたため民俗村は閉園に追い込まれてしまいました。田植えから始まった「結ったんぼ」の稲刈りを皆さんと楽しもうと思っていたのですが残念でした。今回の稲刈りは閉園中にスタッフにより機械刈りで終えまして、ほにょにして乾燥させています。

今回は結ったんぼ最後の作業である「脱穀」となります。稲刈りをお楽しみいただけなかった皆様にはぜひとも収穫の楽しみを味わっていただこうと企画しました。

当日は民俗村らしく昭和年代の作業機械を使用し「脱穀を行います。江戸時代に発明された「千歯扱き(せんばこき)」と、明治末頃に発明された「足踏み脱穀機」で稲から籾(もみ)を取り外し、送風装置を利用してまわら肩やごみと分別する「唐箕(とうみ)」を使用します。

ここまでの作業で食べられる一歩手前の籾まで出来上がります。この後は籾摺り(もみすり)で籾殻をはずせば玄米となり、精米すると白米となりますが、民俗村では初の作業にチャレンジ予定。五月から始まった結ったんぼは、田植え、草取り、稲刈り、そして脱穀作業で米作りの一連の作業が終わりとなります。民俗村ではもち米ですが、私たちが普段口にしている「うるち米」も同じ作業工程でお米になりますので、日本人の

主食であり日本文化の象徴であり四季がある日本の風土に根付いており私たちの生活に深く関わってきたものなのです。

民俗村でのこだわりは、便利な現代に生活しているなか、これらの作業を機械に頼らず、あえて煩わしい手作業で、手順を踏むことで、私たちの口に入るものがどの様に出来るのかを知り、自然の恵みや自然との共生を体感できることが出来ることを目的としています。昔の人たちが自然の中で生きてきたことを実感し、「いただきます」という言葉に込められた思いが感じられると思います。平成四年のみちのく民俗村開村式にあたり、どろ亀さんと高橋延清初代村長が開村宣言された中にある「かつて自然と人間がしっかりと

結びついてきた村の風景を思い出し、環境との関わりをとりもどしたい」との思いは、こういった農作業の中にも見出せるのではと思えるのです。

「写真は昨年の様子」



このサイトはどぞ存じろ?

「きたかみ仕事人図鑑」ってご存じですか?北上でキラッと輝く働く人や、イベント、ニュース、観光情報まで取り上げインターネット、フェイスブック、インスタグラムなどで情報発信しています(私たちにすればしまくれません!)になるか) 北上人が見ても「へえへえ」ボタンを連打するほど。知らなかったこと、あこゆうことばかり。何とトップページには道真などがアラ下がっまっている見覚えのある園内屋川家の画像がうひょひょいと喜びの雄たけびを上げま中を見くみると、いつの間にか取材にいらしたのかしらんと思うほど、園内くまなく、そして何とも豊かな表現でつづきに紹介したいと思っています。いやいや、ホントに民俗村を気に入ったみたいでいる様子。何ともありがたいコトでございませう。情報発信が不得手で、このすんばらしい民俗村の魅力をお伝えできませんにいる私たちにしまみれば、神のようにな。ピ



ホームページ

<https://kitakami-shigotonin.com/>

Instagram (@michinoku)

Facebook (フェイスブック)

<https://www.facebook.com/kitakami-shigotonin/>



Home Page



Instagram



facebook

今年度最後のアラド楽土市

今年度四回の開催を予定していた「アラド楽土市」も最後の開催となりました。昨年度から始まり、回を重ねるごとに来店者様も増え、お陰様でお客様にもたくさん来マいただくことが出来ました。今年度最後の楽土市は、民俗村の「結っこ田んぼ」事業に合わせ開催されます。



ここで出店者のご紹介を。
 スピンクラフト岩泉(草木染毛糸)、ひつじがりや(羊毛巾着づくり)、小彌太(色押し体験)、千田節子(つるカゴ)、ガーデンシヨップ花駒(花苗・リース)、コットンガーデン伊久(着物リメイク)、立花茶屋(野菜・布ゾウリ・三陸応援品)、378(サンナナハチ)(ブローチ・ヘアゴム)、いわま共生会あけぼの(キムチ・味噌)、高橋進(似顔絵・射的)、自立更生会とげせ園(野菜・

公益財団法人

北上青年会議所と

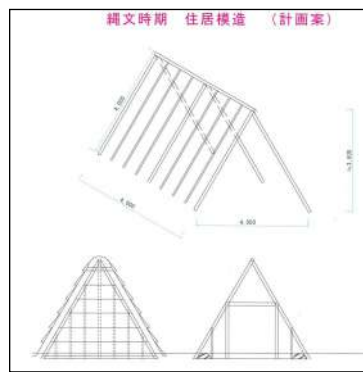
『縄文式住居再現?』

がんづき・きりせんしょ)、三色すみれ(ハーバリウム・アクセサリー)、Mini Mini Top(バッグ)、handmade naagase(アクセサリー)、さをり織りのなかまたち(さをり織)、ビッグロード(バルーンアート)、展勝地レストハウス(もち)、ル・プレジール(天然酵母パン)、高橋共子(水引ブローチ)、美語SHOP(アクセサリー)バックシユトウーベ(ドイッ菓子・すず細工)、枕流亭(北上コロッケ)、アトラスキッチン(カキ・いくら丼)、BAGATE LLE(クレープ)、鉄板焼きBARA(いものこ好み焼き・納豆焼きそば)
 以上の顔ぶれです。初のお顔もちらほらと見えます。お天気次第では少し肌寒く感じると思いますが、熱気ムンムンに皆様のお越しをお待ちしお待ちしておりますので、ぜひお越しください。



青年会議所(TC)は、「明るい豊かな社会」の実現を同じ理想とし、次代の担い手たる責任感をもった20歳から40歳までの指導者たらんとする青年の団体です。(北上青年会議所より)
 北上青年会議所ではまちづくりの人材育成事業や、青少年健全育成事業に取り組みしており、展勝地100周年に絡めた事業も展開している。春先に青少年育成委員会の委員長さんから、小学生高学年を対象とした北上市の歴史を学ぶ全3回の講座を計画し、最後の講座終了後に民俗村で記念になることを子どもたちと一緒にやりたいとご相談がありました。民俗村なら、ではという事業ということや、壊れかけの縄文式竪穴住居の茅葺修復はどうかと提案したところ「諾」とのこと。早速実現に向け関係各所と調整を図っている最中にコロナの影響で閉園、中止と相成り。また、資料に基づいて復元したものであるため文化財関係者も当然ながらいい顔せず。こりやあもうダメかとも思いましたが、青年会議所メンバーも子どもは参加できませんが、うちら委員会メンバーでやりたい!と熱意を感じ、現在の竪穴住居がだめなら新しく作ればいいんじゃないかと、現在の竪穴住居の裏を整地し、そこに茅葺業者の協力を得て「縄文式住居」を作ることにしました。

予定地は埋蔵文化財包蔵地として土地利用規制がかかっているため、先日、市文化財課による試掘が行われ、ようやく条件がクリアできたのです。パチパチパチ。今後、青年会議所の皆さんと日程調整を行い作ることにしようです。
 お楽しみ!



領境クローズアップ!

民俗村園内に伊達・南部の領境があり、のぼりを立ママ分かりやすく示しているのは以前にご紹介しましたが、岩手めんこいテレビ土曜夕方6時30分からの番組「山・海・漬」で伊達藩の城をテーマにした内容でオーピングで領境映像を使ママくれることに!皆様お見逃しなく。



追伸 テレビといえば、サザエさんのオーピングに演舞場での鬼剣舞?とのうわさが...

いよいよ来月は 皆様の、お待たせいたしました! いよいよ来月6日(土)7日(日)の2日間は「みちのく民俗村まつり」開催でございます。

昨年ご好評いただきました横手市の茅葺屋さんによる手作り体験のほかにも体験コーナーを準備してお待ちしております。詳細は後日となりますが、市内の皆様には新聞折込で、もちろん村人さんには郵送でお知らせいたします。ぜひお天気を願ママ今から楽しみにしまください

民俗村のニンが見どころ

いも爺がお勧め!

今回は見どころではなく「聴きどころ」の紹介。北上FMエフエムの「いも爺のまんず聴いマける!」の番組で展勝地のコーナーを設け、展勝地の職員さんや民俗村に関わる人たちと週替わりでトークします。是非聴いマ下さい。FM88.5MHz 毎週火曜日午前9時から1時間番組で再放送は毎週土曜日午後9時。次は誰の出番?

